

## (シラバス No.21)(専門科目(学校教育領域))

科目名	教材・授業研究Ⅲ(言語)	単位数	2単位	科目コード	B7
	Practical Seminar on Instructional Materials and Lesson Study Ⅲ	形態	選択		
	(Language)	担当教員	前嶋 深雪	教職	小

**【授業概要】**

日本語(言語)の特性を知ることは、国語科教育のみならず、学級活動から教育活動全般にわたって活用できる知識となる。教育活動全般を通じた言語活動の活用への気づきと手法、及び国語科教育の内容について学修を深める授業を展開する。また、現在から今後への教育情勢を踏まえた国語科教育への理解を深め、アクティブラーニングの手法やポートフォリオ評価(ループリック作成)の研究ができる基盤を確立する。

**【授業の到達目標】**

1. 日本語(言語)についての特性を知り、教育活動への活用方法を理解する。
2. 国語科の特性を理解し、他教科との連携と教育活動とのかかわりを理解する。
3. アクティブラーニング・ポートフォリオ評価について、授業実践に生かせる研究基盤を確立する。
4. 現学習指導要領と次期学習指導要領の考え方を知り、国語科教育についての理解を深める。

**【授業計画】**

1. 日本語学(言語)についての理解
2. 日本語学と言語学、その歴史
3. 言語能力への要求について(社会からの要請)
4. 言語能力への要求について(教育・教科としての要請)
5. 言語活動と対話
6. 言語活動とコミュニケーション能力
7. 言語活動とアクティブラーニング
8. 言語活動とポートフォリオの活用と評価
9. 国語科学習指導要領の理解(小学校を中心に)
10. 国語科学習指導要領の理解(小学校・中学校・高等学校)
11. 国語科教材への理解(説明文・物語文・文法・漢字・古典)
12. 国語科教材への理解(説明文・物語文・文法・漢字・古典)と授業展開方法の考察
13. 国語科教育と外国語教育の連携(現学習指導要領より)
14. 国語科教育と外国語教員の連携(時期学習指導要領の考え方より)
15. 次期学習指導要領に向けて(言語の視点から)・まとめ

**【評価方法】**

「授業出席及び授業参加・発表(50%)」、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

**【教科書】**

工藤 浩他『日本語要説』(ひつじ書房、1993)  
 伊崎一夫『学習指導案で授業がかわる! 学習指導案を読む・書く・使いこなす』(日本標準、2011)  
 国語科学習指導要領及び解説(小学校・中学校・高等学校):文部科学省

**【参考図書】**

国語科学習指導要領及び解説(小学校・中学校・高等学校):文部科学省  
 西川 純『アクティブ・ラーニング入門〈会話形式でわかる『学び合い』活用術』(明治図書、2015)  
 河野哲也『現象学的身体論と特別支援教育:インクルーシブ社会の哲学的探求』(北大路書房、2015)